

大津波を生き抜いた  
黒森神楽[国指定重要無形民俗文化財]と  
三陸の《現在》を描くドキュメンタリー

# 春はもうすぐなのす 神楽が来れば、

昔々…

峠を越え、山から山、

海から海へ、一夜の

宿を乞いながら

旅をする神楽衆が

おりました

ある時大津波があつて、

海辺が大変な目に

遭いました。神楽衆は

人々を慰めようと

村々を訪ねました。

# 廻り神楽

かぐら



出演：黒森神楽保存会  
共同監督：大澤未来・遠藤協 [兼プロデューサー]  
製作：ヴァジュアルフォークロア  
成：文化庁文化芸術振興費補助金  
支援：一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟  
機材協力：小輝日文

2017年/日本/94分  
<https://www.mawarikagura.com/>  
@mawarikagura





大津波のあとも

祈りの舞を続ける黒森神楽

春になると権現様のお供をして岩手県沿岸を巡る「廻り神楽」。黒森神楽は三四〇年以上、南北一五〇キロにおよぶ地域を巡り続けてきた。海とともに生きる三陸の人々は、日々の生活や人生の節目の祈りを神楽に託してきた。これほど海辺の人々の人生に寄り添ってきた神楽は他にない。海の安全、大漁祈願、家の安寧、子や孫の健やかな成長を舞い祈り、亡き人には神楽念仏を捧げる。この映画は、東日本大震災の後も途切れることなく続く黒森神楽の巡行に密着。震災から六年を迎えて、なお激しい変貌と困難が続く三陸沿岸の《現在》と《人々》を描く。

生きている人も訪ねます。死んだ人も訪ねます。黒森神楽衆は、今日も海辺の村々を廻っています。



神楽を次の世代に引き継ぐのが私の使命  
この映画はそれを後押ししてくれる  
松本文雄 [黒森神楽保存会代表]

黒森神楽は陸中沿岸の人々の魂の抛り處  
震災後もその生きざまに寄り添い、支え続ける  
神田より子 [民俗学者]

東北に根づく芸能には困難から立ち上がる魂が込められている  
二代目高橋竹山 [津軽三味線奏者]

ATP若手映画プロジェクト第5回支援作品 **廻り神楽**  
2017年/日本/94分/ <https://www.mawarikagura.com/>

語り：一城みゆ希 昔話朗読：森田美樹子  
構成：北村皆雄・遠藤 協 撮影：明石太郎・戸谷健吾 ドローン撮影：古館裕三  
撮影助手・ステル：井田裕基 照明：工藤和雄 録音・効果：齋藤恒夫 サウンドデザイン：森永泰弘  
整音：飯森雅允 編集：田中藍子 制作デスク：山上亜紀・渡邊有子  
題字デザイン：杉浦康平+新保韻香 宣伝美術：島田 薫  
共同監督：大澤未来・遠藤 協 [兼プロデューサー] エグゼクティブプロデューサー：三浦庸子・北村皆雄  
製作：ヴィジュアルフォークロア 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-12-12-3F  
TEL: 03-3352-2291 FAX: 03-3352-2293 E-mail: info@vfo.co.jp

三陸の信仰とたくましさを描く  
共同監督の大澤未来と遠藤協は、2012年から岩手県宮古市の「震災の記憶伝承事業」に参加し、被災地に通い続けて来た。初監督作品となる本作で、三陸の豊かな信仰、伝説や昔話を通して、度重なる大津波を生き抜いてきた、たくましさの源を探る。なぜ人々はこの地に生き続けるのだろうか？

2018年11月4日(日)14:00~上映。上映後トークショー(監督:遠藤協、コメント:下休場千秋、辻本篤)  
キネマ旬報2017年、文化映画ベストテンの名作が北海道初上映! **入場無料、事前申込不要**  
場所 北海道大学学術交流会館 小講堂([www.hokudai.ac.jp/bureau/property/s01/01-access](http://www.hokudai.ac.jp/bureau/property/s01/01-access))  
主催 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院付属東アジアメディア研究センター  
連絡先 藤野陽平 ([fujinoyohei@imc.hokudai.ac.jp](mailto:fujinoyohei@imc.hokudai.ac.jp))